東京大学

留学生センター・ニュース

2005年 夏季号　No.35

目　次

2004年度 日本語コース 冬学期修了式

2004年度冬学期の留学生センター日本語集中コース・特別コースの修了式（修了証授与式）が、2月23日(水)15時30分から、医学部教育研究棟13階第４セミナー室で行われました。

冬学期は、集中コース38名、特別コース8名、合計46名の受講者でスタート、10月18日（月）に開講式を行い、10月19日（火）に授業を開始（「クラス1S」だけは11月1日（月）に授業開始)、2月18日（金）に授業を終了しました。受講者のうち、集中コース32名、特別コース7名、合計39名が修了を認定されました。

式には古田元夫副学長をはじめ関係教職員が列席、古田副学長の挨拶に続き、飯塚尭介留学生センター長から修了者一人一人に修了証が手渡されました。

古田副学長は挨拶の中で、コースをやりとげた修了生たちを祝福し、ねぎらうとともに、上達した日本語を活用して今後の留学生活に一層励んでほしいと呼びかけました。

続いて、センター日本語教育部門主任の菊地康人教授から、初級から上級までどのクラスも限られた時間でよく努力して上達したことを評価したいとする講評が述べられました。

最後に各クラスを代表する6名の留学生がそれぞれ日本語でスピーチを行い、来日直後と5か月を経た現在とを比べての日本語能力・日本への適応の程度の違い、日本語のクラスの様子やその思い出、センターの教育への謝辞などを述べました。いずれも上達した日本語で、初級の学生も個性ある内容豊かなスピーチをして、来賓の皆さんの大きな拍手を得ました。

留学生のスピーチを最後に式は終了しましたが、引き続き山上会館に場所を移して、修了を祝うパーティーが開かれました。修了者たちは、今後は研究科・専攻ごとに分かれての研究生活となり、たびたび会う機会もなくなるだけに、修了者どうし、またセンターのスタッフとの間で、写真を撮るなどしながら、最後まで別れを惜しんでいました。

なお、修了式・パーティーには、多忙な中、センター運営委員の先生や、修了者の指導教員の先生も、何名か出席してくださいました。

次に、各クラス代表の留学生のスピーチを掲載します。

なおまた、上記「集中コース・特別コース」と同時期に授業を開始した「日韓理工系学部留学生予備教育プログラム」については、3月3日（木）まで授業を行い、3月4日（金）11時30分から、留学生センターで修了式とパーティーを行いました。同プログラムの受講者は5名で、全員無事修了しました。

クラス１

モンテロ ヒラランズ ダビッド Montero, Gilarranz David
（スペイン、情報理工学系研究科）

みなさん、こんにちは。みなさん、私は、ひとりの人じゃなくて、クラス１のぜんぶの学生たちです。せかいのいろいろなところから来ました。たぶん、なまえをいわなければなりませんね。クラス１のダビッドです。

クラス１には学生が６人いましたが、みんなぜんぜんちがうタイプの人たちでした。たとえば、毎日おくれて来る人や、毎日すごくはやく帰る人や、毎日先生のしつもんにゆっくりこたえる人や、毎日、午前中ずっとごはんを食べている人や、毎日ちがうヘアスタイルの人や、スタイリッシュな女の人がいました。でも、私たちは、すぐ、いいともだちになりました。

一週間に、先生は９人で、クラスは１２ありました。午前のクラスはとてもたいへんでした。昼ごはんの後で、私たちはとてもつかれていましたが、毎週テストがありました。ですから、よく短いひるねをしたくなりました。

クラスでは、ひらがなやかたかなやぶんぽうをべんきょうしました。かたかなは２日間でならったので「e-le...bei...t-t-t-taaa」まだかたかなで読むのがへたです。私たちのテキストは３さつありましたが、何をべんきょうするときも、先生がたは「これは日本語のいちばんむずかしいところ」だと言いました。ですから、私たちは「日本語はぜんぶむずかしいらしい」とおもいました。

Conversation challenges は、ほんとにchallengingでたのしかったです。いちばんたのしかったのは、タスクのあとでビデオをみるときでした。国へ帰ったら、このビデオをちちとははにもみせたいとおもっています。そのとき、「むすこのはなしかたはおもしろいねー。」と言うとおもいます。

日本に来たときに、はじめは「ここにすむことは、たぶんむりだ」とおもいました。だれにもはなせないし、だれにもわかってもらえませんでした。でも、日本語をべんきょうしたので、いまは、毎日のせいかつの駅の人のこえや、電車の中のアナウンスや、ＡＴＭのこえが、私たちにだんだんちかいものになっています。

このクラスで、きそてきなぶんぽうをぜんぶならいました。やさしいクラスメートと先生がいたから、べんきょうは、ほ

んとにたのしかったです。これから、私たちにとってたいせつなことは、べんきょうをした日本語をつかってみることです。これからもがんばります。
これでおわります。ありがとうございました。

クラス1S

バラドン　ギョーム
Valadon, Guillaume（フランス、情報理工学系研究科）

みなさん、こんにちわ。
わたしは、クラス１Ｓのだいひょうでスピーチをします。
わたしは、５かげつまえから　とうきょうにすんでいます。はじめ、にほんごがわからなかったので、せいかつは　ちょっとむずかしかったです。にほんごをはなしたいとおもいました。それで、りゅうがくせいセンターのクラス１Ｓで　にほんごのべんきょうをはじめました。
このクラスには、がくせいが11にんいました。たくさんのくにからきたがくせいです：ちゅうごく、ブラジル、フランス、スペイン、ドイツ、タイ、スイス。11にんのちいさいクラスだったし、クラスメートはすてきだし、にほんごのじゅぎょうは　とてもよかったです。
はじめに、にほんごのかきかたをならいました。ひらがなは かんたんでした。でも、はつおんは むずかしかったです。ぶんぽうは フランスごのぶんぽうとちがうので、はじめはとてもむずかしかったです。わたしは、クリスマスのときから わかりはじめました。
よんかげつかん、たくさんべんきょうしました。がくせいは、せんせいに「がんばってください。べんきょうしてください。」とよくいわれました。まいにち、れんしゅうして、しゅくだいをしました。じしょのひきかたもならいました。まいにち、せんせいは、がくせいににほんごをはなさせました。せんせいは、とてもいいせんせいで、がくせいに たくさんいいじゅぎょうをしました。
おかげで、いまは、にほんごがすこしかけて、よめて、はなせて、わかります。いま、わたしは、けんきゅうしつで、ちょっとにほんごをはなします。スーパーマーケットで、かんじがわからなかったときは、かんじのよみかたをしつもんします。
みんな、もっと、にほんごがはなせるといいですね。がんばりましょう。
せんせいがた、クラスメートのみなさん、ありがとうございました。

クラス2

グートマン ミハエル ウルス　Gutmann, Michael Urs
（スイス、新領域創成科学研究科）

みなさま。こんにちは。スイスのミハエルと申します。今日は、クラス２を代表して修了のスピーチをさせていただくことになりました。
私達のインテンシブコースは４か月間でした。去年の10月にいろいろな国の留学生が毎日留学生センターに通い始めました。違う国から来ていろいろな違いがありましたが、私達の共通点はみな日本語があまり上手ではなく、子供のような気持ちになっていたということです。
今日は、生活していくために必要な日本語の基礎を４か月間で教えてくださり、もっと日本語を勉強したい気持ちにさせてくださった先生方に感謝したいと思います。
クラス２は５人だけでしたが、世界中から来ました。オーストラリアからカイリさん、カナダからクリスさん、ハンガリーからゾルタンさん、フランスからミトさん、そして私でした。文化が違うだけでなく、私達は専門も、工学、言語学、哲学、科学などそれぞれ違うことを勉強してきました。
その違いにもかかわらず、先生方はいろいろな工夫をして、とてもいい授業をしてくださいました。その中で、会話のクラスでは「カンバセーション・チャレンジ」というのがあったのですが、今年の１月、私達は本当にクラス２の先生を新年会に招待しました。新年会には、学生５人に対して14人もの先生が来てくださって、その新年会はまさに「カンバセーション・チャレンジ」になりました。
先生は初級の日本語の授業で初心を忘れないことの大切さも教えてくださいました。初心を忘れない人は謙虚で、良く考えることができると思います。初心を忘れないことで、初級の人は早く上達でき、上級の人はさらに上達することができると思います。今から、日本語の授業の中で勉強したことだけでなく、そのことも忘れないようにしましょう。
私達は、授業を始めた時はあまり日本語がよく分からなくて話せませんでしたが、４か月後には日本語でこんな発表ができるようになりました。この日本語のコースの間に、地震、台風、入学試験、それから秋の紅葉、冬の雪、そして温泉などいろいろありました。とても楽しい経験でした。先生方、指導教官の先生方には４か月間大変お世話になりました。どうもありがとうございました。

クラス3

ブルシュチッチ ドラジェン　Brscic, Drazen
（クロアチア、工学系研究科）

皆さん、こんにちは。クラス３の代表で、クロアチアのドラジェンと申します。よろしくお願いいたします。
日本に来た日から４か月しかたっていませんが、本当に長い時間だったという気がします。４か月前に日本での生活を始めて、いろいろな問題がありましたが、その中で一番難しかったのは日本語でした。日本へ来る前に日本語の勉強をしましたが、それは十分ではなかったので、日常会話ができず、新聞なども読めず、子供のようになってしまったという気持ちでした。日本人の小さい子供を見ても、みんな私より日本語がよく話せました。それはあまりいい気持ちではありませんでした。
しかし、そんなときに日本語集中コースを受けました。初めての授業のことは今でもよく思い出します。私もクラスメートも部屋を見回して「ここはどこ」というような顔をしていました。クラスメートとはこのときに初めて会ったんですが、授業が進むうちに、いい友達になりました。
クラス３の学生はスペイン、オーストリア、ロシア、フランス、中国、そしてクロアチアから日本へ来ていて、皆様々な経験や意見を持っていました。それで、皆と話すのはとても面白かったです。でも、初めのころは、おたがいにうまく日本語で話せず、いつも英語で話していました。しかし、授業が進むとともに、日本語が少しずつ上手になって、だんだん日本語で話すようになりました。今の私達の日本語と日本へ来た↗

時の私達の日本語を比べると、本当に大きな進歩を感じます。
これまで教えてくださった先生方に心から感謝したいと思います。先生方のおかげでクラス３の皆はこの４か月のうちに日本語がとても上達しました。でも、それだけでなく、日本の文化や社会についても説明していただいて、本当に役立ちました。クラス３を教えてくださった先生方は９人もいらっしゃいましたが、授業ではどの先生もわかりやすく説明したり、いろいろ面白い話をしたりしてくださって、私達はずっと授業を楽しみにしてきました。先生方、この４か月お世話になりました。本当にありがとうございました。
最後に、今日で日本語のコースは終わりますが、私達はこのコースで得た知識をもとにして、さらに日本語の勉強を続けたいと思います。これからも頑張りますので、よろしくお願いします。ありがとうございました。

クラス４

マルゾルフ フレデリック　Marzolf, Frederic
（フランス、情報理工学系研究科）

皆さん、こんにちは。
私はフランスからまいりました、フレデリックと申します。大学院情報理工学系研究科の研究生として並列分散について研究しております。今日は冬学期のクラス４の代表として、クラスの様子とメンバーについてお話しいたします。
クラス４は今学期、はじめは４人いました。経済を勉強しているオランダのメリーケさん、そして日本の歴史を熱心に勉強しているアメリカのウィルさんとイスラエルのヤギさんでした。しかし、ウィルさんとヤギさんは日本の歴史の研究で忙しくて途中で日本語の授業をやめましたので、とても小さい２人のクラスになりました。
このクラスは一週間に４回、約１時間半ずつのクラスでした。毎日先生といっしょに『留学生の日本語』という教科書で、いろいろなトピックについて書かれた記事を読む練習をしました。トピックもおもしろく、単語や文法の説明もわかりやすくて、とてもいい教科書でした。そのおかげでたくさんのふくざつな表現と単語が使えるようになりました。授業では時々教科書以外のとてもおもしろい新聞記事も読みました。また、さまざまな話題についてディスカッションし、それぞれ自分の意見を述べる練習をしました。
記憶にのこっているのは、私たちの興味をもっていることや自分の専攻について発表したことです。Network security について発表した私にとってはもっとも大変な経験でしたが、これからの専門の研究に非常に役に立つ勉強になりました。
また毎日の漢字テストと作文を書く練習のおかげで、みな、日本語を読む力と書く力がつきました。
クラス４は２人だけの最も小さいクラスでしたので、先生が学生のようすによく気を配ってくださり、とても有益なクラスでした。先生がたは学生それぞれの弱いところが分かっていて、いつも分かりやすい説明をしてくださいました。先生がたにクラス４の代表として心から感謝したいと思います。
今日、日本語の集中コースが終わります。このクラスのおかげで私たちは日本語がとてもじょうずになりました。しかし、私たちの日本語の勉強が終わるわけではありません。これからは専門の研究を進めながら日本語をもっと深く勉強したいと思います。センターのみなさん、留学生課のみなさん、どうもありがとうございました。

特別コース

馬　麗華　Ma Lihua
（中国、教育学研究科）

皆さん、こんにちは。
今日は、特別コースの皆さんを代表してスピーチをする機会を与えられまして、大変光栄に思っております。では、これまでの四か月間を振り返りながら感想をお話しさせていただきたいと思います。
今回の特別コースでは、「研究論文の書き方を学ぶ」ということが大きな目標としてあげられていました。始めた時、週に一度、しかも短い期間で研究論文の書き方が身につくのだろうかと内心不安でした。しかし、三人の先生のおかげで、わたしの不安はすぐに吹き飛びました。まず、増田先生は論文の種類とその全体構造をはじめ、序論・本論・結論の構造を書くための技術を教えてくださいました。論文作成の全体像を頭に入れた後、菊地先生は各章の内容を書いていく際に求められる定義・分類・比較などの表現方法について教えてくださいました。最後には、論文作成に欠かせない引用や図表の説明の方法などを、二通先生に教えていただきました。
三人の先生方は常に学生の意見を尊重し、ゆっくりと話し合いながらお互いに納得できるような答を導こうと努力してくださいました。力を入れて黒板に字を書きながら、短い時間でたくさんの知識を伝えてくださった増田先生の姿、学生が疑問がありそうなとき、一所懸命に分かりやすい説明をしてくださった菊地先生の姿、私たちのどんな質問にもいつもお母さんのように親切に穏やかに答えてくださった二通先生の姿は、一枚の絵のように記憶に残っています。この場を借りて、三人の先生方に心からの感謝を申し上げます。
それから、このコースを通じて、いろいろな国の留学生と触れ合えたことも収穫でした。特別コースはＡとＢの二つのクラスに分かれていました。学生達はアメリカ、オーストラリア、ベトナム、タイ、中国、台湾といった国や地域から来ており、専門も生物学、情報学、政治学、農学、教育学などさまざまでした。授業が週に一回しかなくても、違う考え方を持っているそれぞれの国からの留学生と話し合って、自分の視野が広がっただけでなく、なんとなくリラックスもできました。ここで、同じクラスでお互いに励まし合い、また刺激を与えてくださった皆さんにも感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。皆さんがそれぞれの専門分野で活躍できますよう、お祈りいたします。
これから日本で留学生活を続けながら、研究者として一人前になるためには、専門分野の研究者にも評価されるような研究論文を書けるように頑張らなければなりません。今回の特別コースはその目標に至るまでの土台となって、これからの私達を支えてくれると信じております。
ご清聴ありがとうございました。

「FACE・ボランティア連絡会」を開催

FACEボランティア連絡会が2005年3月22日昼と夜の2回開かれました。出席者から日頃の交流の様子の報告があり、また、交流に有益な情報の提供、共有したい情報の交換が行われました。「他の人はどんな交流をしているのだろう」「どうしたらいい交流ができるのだろう」など常々思っていることを話し合い、考える場となりました。交流の方法や内容は多種多様で、それぞれ特徴ある交流を続けていることがわかりました。

どんな交流？

■博士課程に入り、研究も忙しくなってきましたが、週一回、我が家に来てくれます。お茶を飲みながら、ひとしきりおしゃべりした後、新聞の切り抜きや研究発表に必要な表現など勉強しています。気持ちよく、楽しく会っています。

■非常にミニマムではありますが、よい感じで日韓交流ができ、それを楽しんでいます。また、以前担当したソウル在住の方とも、メールや郵便での交流が続いています。

■主に、サバイバル日本語の練習相手をしております。研究に明け暮れる毎日で、なかなか日本人の友人ができないそうです。会うのは昼間なので、なるべく典型的な「日本の昼食」を出すところで一緒にランチをしています。

■FACEを開始してから半年経ちました。相手が様々な経験ができるよう、工夫してきたつもりです。例えば、①私の実家をいっしょに訪ね自然の中を散歩していたら、彼女の育った土地も同様であることが判明したり、②週一回のペースで私の自宅で会い、お菓子やパン、料理を作ったり、③ご主人も含め3人で雛祭りパーティーをするなど、日本文化を味わってもらったりした。また、留学生とは偶然にも専攻が同じだったため、彼女の就職活動のお手伝いもできました。彼女とは、ボランティアというよりも親友であり、私の親友であり、私の方が幸せを分けてもらっていると感じています。

■私の職場のクラブチームの合同合宿(新潟)に連れて行き、会社の執行役から部長クラス、同年代といろいろな世代とも話しをしていて、とてもいい社会経験ができたのではないかと思っています。バスケ部の練習でも、初心者にもかかわらず、積極的にプレーをし、その上達ぶりには、チームメートも驚くほどでした。

■最近はお互い多忙だったため、あまり交流は多くありませんでしたが、近々私の家族を紹介しようと思っています。学園祭に行ったり、コーヒーを飲みに行ったりした中で、お互いの国の実情が分かりました。メディアで知ることのできない細かいことや、話題として取り上げられていない国の問題が分かりました。もっといろいろなことをお互いに話し合えたらいいです。

どこで会っている？

■お互い便利のよい、港区の図書館で交流してまいりました。

■大学の近くの喫茶店で、原則週一回、先方希望の新聞記事や論文を一緒に読んでいます。その間、相互の文化についての意見交換もあり、先方が積極的なので、楽しい時間を過ごしています。

■週末私の家に来てもらって、家族と食事したり、大学生の私の子供たちと話をしたりしました。また、メールでのやりとりもして、家族で暖かく見守っています。

ずっと続いています

■交流はずっと続いています。日本に来て生まれたお子さんも４才になり、とてもかわいくいい子に育っています。私は日本のおばあさん役をしていて、家族を含めて、招いたり、招かれたりしています。

■２年前にご紹介いただいた留学生２人と家族ぐるみでお付き合いを続けています。昨夏は彼女たちの夏休み帰国中、夫と二人で旅行し、彼女たちの家にホームステイをし、家族ともお会いできて楽しい休暇となりました。また、彼女たちの友人たちとも交流が広がり、お正月には夫の実家で日本料理とお国の料理を持ち寄ってのお祝いをし、両親兄弟家族も賑やかにおしゃべりしていました。日常的にはメールの交換をし、月に１,２回は会っています。

離れてしまいます。でも…

■彼女の修士修了を機に、交流は終了します。週に１,２度、しかも昼休みに会うだけの付き合いですが、２年半という長い年月を共にしたため、感慨ひとしおです。

■相手が他大学に転学し、東京を離れましたので、夜中に時々、MSNメッセンジャーで会話しています。また、2度その地に行くチャンスがあり、会うことができました。

「交流ボランティア実践講座」を開始

本センター留学生教育・相談指導部門では、市民向けに「交流ボランティア実践講座」を開始しました。留学生を含めた在住外国人の現状、彼らとの交流や支援のあり方などについて理解と認識を深め、多文化化が進む日本社会に対応しうる知識と姿勢を実践的に身につけることを目的としています。このため、講師による講義やワークショップと平行して東京大学FACEプログラム
http://www.ic.u-tokyo.ac.jp/adv/b02_j.html
に登録参加し、東京大学に在籍する留学生、研究者やその家族と実際に交流活動を行います。

昨年10～12月に毎週1回、8回の講座を試みに実施しましたが、評判も良く、4月から始められた今講座は2度目の試みとなります。今回は新聞で報道されたこともあって（朝日新聞3月29日夕刊）、申し込みが殺到し希望者が200名近くに達しましたが、その中から抽選で20名を選び、4月下旬から8回の講座を開始しました。講師にはセンター指導部門の教員を中心とし、外部の外国人支援の活動家や本学留学生にも協力を依頼しました。4月20日（水）に実施された開講式とオリエンテーションには全員が出席し、飯塚尭介留学生センター長による挨拶の後、講座の趣旨説明、受講生の自己紹介などを行い、順調なスタートを切りました。5月25日（水）には、FACEプログラムによる留学生と受講生の顔合わせ会（写真）がありましたが、講座受講者もさほど緊張することなく、和やかな雰囲気で組み合わせの留学生と熱心に話し合う風景が見られました。

留学生との交流 担い手育てます
東大、実践講座開催へ

朝日新聞（夕刊）05.03.29

〔講座内容〕

月・日（曜日）	時　　間	講座内容	講　　師
4月20日（水）	14：00～16：00	オリエンテーション・自己紹介	留学生センター
4月27日（水）	14：00～16：00	在住外国人の現状と日本社会の課題	栖原　暁
5月11日（水）	14：00～16：00	異文化体験	斉藤 陽子＋外国人2名
5月18日（水）	14：00～16：00	留学生受入れと留学生相談	寅野　滋
5月25日（水）	14：00～16：00	顔合わせ会	留学生センター
6月 1 日（水）	14：00～16：00	交流・支援って何？～日本語による交流の実際～	村上 由美子／藤橋 帥子
6月 8 日（水）	14：00～16：00	多文化共生のまちづくり	王　慧槿（多文化共生センター・東京21代表）
6月15日（水）	14：00～16：00	振り返りと今後の活動～修了式に代えて	留学生センター

「東京大学留学生担当者連絡会」を開催

東京大学の留学生受入れ部局の留学生担当教職員による連絡会が、今年1月～3月にかけて、右記のように2回にわたり実施されました。

■平成17年1月27日（木）13：30～15：00
医学部研究棟3階第4セミナー室

■平成17年3月2日（水）15：00～17：00
医学部研究棟3階第4セミナー室

「第5回東京大学日本語教育連絡会」を開催

2005年3月8日(火)13時30分から留学生センター会議室で第5回東京大学日本語教育連絡会が開催され、東京大学で留学生に対する日本語教育を実施している12の機関(教室)から30名近い関係者が出席しました。また、同連絡会の第2部として講演会も行われ、第1部からの参加者も含めて約40名が参加しました。

東大では、留学生センターが全学の留学生を対象に日本語教育を行っていますが、このほか、各部局あるいは専攻ごとに設けられた日本語教室は十余にものぼります。このため、その相互の情報交換を目的として、留学生センターの呼びかけで1999年にこの連絡会を開催し、以後も適宜開催しています。

第5回目となった今回は、人文社会系・教育学・理学系・工学系・薬学系・新領域創成科学の各研究科、および、工学系研究科の中の社会基盤工学・都市工学・MEM特別コース・システム創成学(共通で日本語教室を設置)の各セクション、生産技術研究所、留学生センターの計12機関(教室)から、それぞれの日本語教育関係者が出席しました。

第1部では、新領域創成科学研究科日本語教室から柏キャンパスにおける日本語教室の状況についての報告があり、次いで社会基盤工学専攻、工学系研究科(国際交流室)の各日本語教室、および留学生センターから、それぞれの教育内容の一端を紹介する実践報告が行われました。教育内容の紹介にまで踏み込んだ報告は今回初の試みでしたが、好評で、今後とも留学生の増加とともに日本語教育の必要度がさらに高まることが予想される中、引き続きこうした情報交換・実践報告の機会を設けていくことが確認されました。

第2部は、「コミュニケーションに役立つ文法シラバス— 母語話者の言語運用データに基づいて—」というテーマで、小林ミナ北海道大学助教授による講演が行われ、日本語教育における文法項目のシラバスデザインの見直しや、文法の効果的な指導方法などに関して、実践に生かすための提言が行われました。講演後の質疑応答では参加者から活発に質問が相次ぎ、盛会のうちに終了しました。

「日本語教育研修会を実施」を実施

2005年3月9日(水)・10日(木)の両日、留学生センターで、センター日本語教育部門の専任教員4名と2005年度の非常勤講師14名(全員)が参加して、日本語教育研修会を行いました。

センターの非常勤講師は公募によって選ばれた日本語教育の専門家ですが、センターの日本語教育には、東京大学の研究留学生の特徴やニーズに対応するための独自性が要求される面があることなどから、毎年、新年度の授業開始を前に研修会を実施しているものです。今回は、(1)東大の留学生の学習者としての特徴とそれへの対応、(2)文型の教授との関係で語彙の提示・教授をどう行うか、(3)本センターにおける動詞の活用の教え方、(4)当該項目の「コア」を示す文型発展練習、(5)ディスコースの展開技術を身につけ会話教育、(6)〈認識〉と〈学習者の置かれた環境〉を重視する漢字教育などについて、ワークショップ形式で研修を行いました。

〈留学生相談室から〉

「病気になったらどうしよう?」

新緑から緑の濃くなる初夏は一年中で一番美しい季節です。しかし、また心身の病気にかかりやすいのもこのころです。来日して1年目の留学生の皆さんは特に気をつけてください。日本の生活や大学の授業、研究生活に慣れ始め、ほっとした時に疲れやストレスから身体をこわしがちです。

育った文化や習慣と異なる国で病気になるのはとても心細いものです。そのような時のために知っておくと便利な情報をまとめました。

では、まず病気になったときにはどうすればいいでしょうか?

■東京大学保健センター

学内で診察を受けたり相談できるところがあります。保健センターは本郷、駒場、柏の各キャンパスにありますが、診察時間や診療科はそれぞれ違っています。詳しいことはホームページや学部、研究科の掲示板を見てください。

(http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/health/)

■近所の病院、医院、診療所、クリニックなど

名称はいろいろですが、入院施設を持たない比較的小さな病院が皆さんの住んでいる近所にたくさんあります。軽い症状や病名の予想がつくときにはまず近所の病院にいってみましょう。このような病院のほとんどは日本語で診察を受ける必要があります。もし日本語で自分の症状を話すことが難しい場合は日本人の友人などに頼んで通訳してもらいましょう。住んでいる区や市の国際交流協会などに医療通訳の制度があるところがあります。この制度を利用すると病院などの通訳を頼めます。有料の場合もありますので、地域の区市役所や国際交流協会に問い合わせてください。

■国公立や私立の大病院

入院施設が整い診療科も非常に多い大病院(東大病院など)は、ほかの診療所などからの紹介状なしに診察を受ける場合には、保険の適用を受けない特定療養費が初診料にプラスされます。この制度は、軽い病気の患者が大病院に行くことにより大変な混雑が起こり、重症患者の治療に問題が起こるのを防ぐためです。自分の病気に合った病院や医師を選ぶことが大切です。手術を要するような場合はともかく風邪を引いたぐらいで大病院にいくと、余計な診察代がかかるだけでなく予約をしていても長時間待たされることがよくあります。

■AMDA国際医療情報センター

日本語以外の言語で診療を受けたい場合に相談できるのがAMDA国際医療情報センターです。①さまざまな言語で電話相談(03-5285-8088)を受けており、言葉の通じる医療機関や利用できる日本の医療福祉制度の紹介をおこなっています。

また、神奈川県国際交流協会のホームページで紹介している多言語医療問診票は13の言語でさまざまな症状を日本語と対訳で載せています。②

病院を受診するときにこの問診票を利用すれば、医師に説明したい細かい症状を日本語で正確に示すことができます。

①(http://homepage3.nifty.com/amdack/)
②(http://www.k-i-a.or.jp/medical/)

■医療福祉情報を得るためには

すでに皆さんもよくご存知のように、「留学」ビザを持っている外国人学生が国民健康保険に加入している場合、「外国人留学生医療費補助制度」が利用でき、支払った医療費の約80%が戻ってきます。日本にはそのほかにも知っておくと大変便利な医療や福祉に関する補助制度があります。手術や入院などで非常に高い医療費を払った場合に返金される「高額療養費」制度(留学生センター

ニュース33号・2004年秋季号参照)、乳幼児を育てている家庭を支援するため、ゼロ歳から小学校に入る前までの子供の医療費を無料または補助する「乳幼児医療費助成制度」、特別な難病にかかった人の医療費を補助する「特定疾患医療費助成」などがあります。このような情報は区や市のホームページなどで調べることができますが、留学生相談室でも病気や交通事故、日本の医療福祉制度などに関してわからないとき、困ったときに皆さんの相談に乗っています。直接相談室に来られないときや気分の悪いときは電話やメールでも相談できますのでいつでも利用してください。

日本語以外で詳しい情報を得ることは大変難しいですが、東京都港区医師会のホームページは英語で区内の医療機関や医療福祉情報を掲載しています。参考にしてください。

(http://www.minatokuishikai.or.jp/eng/index_e.htm)

■国民健康保険で診療を受けられない場合

国民健康保険に加入している場合、ほとんどの医療費は保険診療となり3割支払うだけですが、保険の対象とならないものがいくつかあります。気をつけましょう。

① 出産費用(正常出産)

妊娠中の検診や出産費用は保険の対象になりませんが、出産後出産一時金として約30万円が支払われます。

② 交通事故

交通事故で怪我をした場合は交通事故のための特別な保険(自動車保険など)から支払われますので、国民健康保険は使えません。

③ 労働災害

アルバイトなど仕事中に怪我をした場合は雇用主が加入している労災保険から支払われます。必ず職場で相談してください。

④ 健康診断

健康診断を受ける場合も保険の対象にならないため高い費用がかかります。就職試験を受けるためなどに必要ですから、保健センターで毎年行われている定期健康診断を必ず受けてください。

また、家族の健康診断は、住んでいる区や市で区市民対象に毎年無料で行う健康診断がありますので、保健所などで相談してみましょう。

(留学生相談室　斉藤陽子)

留学生センターからのお知らせ

留学生センターのホームページがリニューアル

留学生センターのホームページがこのほどリニューアルしました。留学生のための日本語コース、生活、海外からの留学等に関する案内などの情報が満載されています。ぜひ役立てて下さい。
http://www.ic.u-tokyo.ac.jp/index_j.html

メール・マガジン「留学生交流・支援ニュース」を始めました 〜配信登録を受け付けています〜

2005年1月末から、留学生センター留学生教育・相談指導部門では、東京大学留学生のためのメール・マガジン「留学生交流・支援ニュース」の配信を開始しています。アルバイト、宿舎、リサイクル用品等の有益な生活情報や、イベント等の交流企画情報などを掲載しています。希望者には無料で配信しますので、留学生センター留学生相談室に直接来るか、下記にメールで問い合わせて下さい。
merumaga@ic.u-tokyo.ac.jp

就職支援情報を更新中です

昨年6月から、留学生のための就職支援を行なっています。進路で悩んでいる留学生は、留学生相談室まで来て下さい。

企業からの最新情報は以下のホームページで見ることができます。
http://www.ic.u-tokyo.ac.jp/adv/a01_04_j.html

生産技術研究所の紹介

国際交流係　森口　広美

東京大学の駒場キャンパスといえば、新入生やサークルや運動部の練習で賑わう教養学部のキャンパスを思い浮かべられる方が多いかもしれません。一方、生産技術研究所のある駒場リサーチキャンパスは同じく駒場地区に属してはいますが、前者とは全くイメージの違う空間で、いわゆる大学キャンパスというより教員、研究者、大学院生による様々な研究活動が行われている研究棟コンプレックスです。近隣は閑静な住宅街で都心にありながら本当に静かで落ち着いた研究環境です。

生産技術研究所の研究内容は基礎的工学から応用技術まで広い範囲に渡っており、国内の他機関、他大学、産業界との協力連携だけでなく、国際的な学術交流も盛んです。外国人研究者や外国人留学生にとって格好の活躍の場所と言えます。そのような皆さんの研究活動をサポートすべく行われている事業の中に日本語教室があります。

日本語は、各国のさまざまな言語の中でも最も難しい言語の一つだと言われています。そのため日本語の習得は、外国人にとって大きな難関のひとつです。論文作成や研究室でのコミュニケーションが英語で足りるとしても日本語の習得なしで日常生活を送るのは困難です。

現在、生産技術研究所では1年度を夏学期と冬学期の２回に分けて日本語教室を開講しています。授業は、駒場リサーチキャンパス内の他研究所に所属する外国人留学生等も対象としてレベル毎に３クラスに分かれており、言語習得のみでなく日本文化やマナー、地理といった日本での生活に有益な情報提供の意味合いも含まれています。また午前中に授業が終った後、講師と昼食をともにしたり、クラスメートと情報交換をしたり、日頃は研究室内だけの交友関係に限られがちなキャンパス生活の雰囲気が、がらっと変わります。この日本語教室が有意義なコミュニケーションの機会提供の場になっていることを見ると、大変喜ばしく思います。

さて、もう一つご紹介したい事業に「外国人研究者・留学生との懇談会」があります。この催し物の歴史は古く昭和５９年から毎年開催されており、研究活動に励む外国人研究者・留学生等に交流や情報交換のチャンスを提供し、今後の研究活動に活かしてもらうための重要なイベントです。特にこの懇談会でユニークな点は、アトラクション形式で各国の文化を紹介するプログラムを持っていることです。毎年、歌や民族音楽の演奏、ダンス等が披露され、各国の文化理解を促すというさらに重要な役割をも担っています。

古き時代の留学は、知る喜びを求めて海を越え山を越え命がけの旅をすることでした。外国で学ぶ異文化と接し友好を深めることはそれほどまでに魅力あることだったのだと思います。交通手段が発達した今日においても、大学は依然として好奇心旺盛な人々が世界中から集う出会いの場所です。生産技術研究所がますます、それに相応しい魅力的な空間になっていくことを願います。

在日留学生はどんな社会支援を求めているか？

教育学研究科　総合教育科学専攻博士課程　　邱　焱　（中国）

在日留学生の一員である筆者は、これまでの自分の留学生活の中において住まい探しや心の悩みなどの様々な問題に直面し、留学生に対していかに社会の支援が重要であるかを身をもって体験してきた。そして、私の調べたところ、日本では留学生へのソーシャル・サポートについて改善すべき点が多々あり、それについての研究も未だ進んでいないことが分かった。そこで、自分の研究テーマとして在日留学生のソーシャル・サポートを取り上げ、その成果を改善のための一資料としてほしいと考えた。以下、私の研究結果の要点を述べ、皆様のこの問題に対する関心を深めて頂きたいと思う。

留学生は地縁・血縁を殆ど持たず、言語能力・文化差異の阻害、留学期間の制限、学費・生活費の調達などの面で不利な点があり、社会的・文化的不適応の問題を多く抱えている。そのため、留学生は社会支援を強く期待する集団であると言われている。

現在、在日留学生に必要な社会支援は、大まかに「言語的サポート」、「物質的サポート」、「心理的サポート」の３種類に分けられている。次にそれぞれについて説明したい。

言語的サポートについて

言語的サポートというのは、例えば「留学生の日本語を添削してくれる」、「留学生の代わりにアルバイトの求人先に電話してくれる」、などのようなコミュニケーション上のサポートである。

言語は外国で学習・生活している留学生の一番困っている問題であることはいうまでもない。言語能力が不十分なため、商品の取扱説明書を読めなくて使い方が分からない、また日本語で専門書が読めない、授業についていけない、などといった悩みを抱えている留学生が少なくない。このように、言語は生活・学習・研究のあらゆる領域に影響を与えるため、留学生に対する言語的サポートは非常に重要であると言える。

表 - 1 は聞き取り調査に基づいてまとめた在日留学生が求めている言語的社会支援の内容である。

表 - 1

言語的サポート
● 入試案内など、進学のための重要な文書やお知らせを訳してほしい。
● 絵や実物やジェスチャーなどを利用して分からない言葉を教えてほしい。
● 私が知らない単語や外来語などを漢字で書いてほしい。
● 私の質問に母国語で答えてほしい。
● 私の日本語を添削してほしい。
● 日常会話中の日本語の間違いを指摘してほしい。
● トラブルが起きた場合、私と一緒に、あるいは私の代わりに、相手と交渉してほしい。
● 日常生活に必要な手続きの際に通訳してほしい。
● 取り扱い説明書を訳してほしい。
● 私の代わりに日本語の電話を聞いたり、かけたりしてほしい。
● 事故、病気などの緊急時に通訳してほしい。

物質的サポートについて

物質的サポートというのは、お金や物を貸してくれるといった物質的な助力や困った時に手伝ったり、指導したり、情報を提供してくれるといった労力的な助力である。

在日留学生の殆どは中国を始めとするアジアの国々から来ており、しかも、その中の 90％は私費留学生である。物価が高い日本で学習と生活を両立させるのは、彼らにとって簡単なことではない。

筆者の調査においても、ある留学生は、「私は勉強したい。しかし生活を維持するために、たくさんアルバイトをしなければならない。アルバイトをすると疲れるので、勉強する時間もなくなる。」

とコメントを寄せたが、経済的な面において、留学生が如何に苦境に立たされているかが伺えるであろう。現在、このような留学生は数多くいるので、留学生に対する物質的サポートも重要である。

表-２は筆者がまとめた在日留学生が求めている物質的社会支援の内容である。

表-2

物質的サポート
● 日本語を学ぶための資料、参考書を貸したり、譲ったりしてほしい。
● 進学するための資料、参考書を貸したり、譲ったりしてほしい。
● 進学したい学校の学生や先生と話し合う機会や場所を設けてほしい。
● 学校を休んだ時など、授業の進み具合や宿題などについて連絡してほしい。
● 母国語の新聞や雑誌を提供してほしい。
● 電気製品・家具を貸したり、譲ったりしてほしい。
● 日用品を貸したり、譲ったりしてほしい。
● 保証人になってほしい。
● 安い食事を提供してほしい。
● 経済の問題で困った時に、対策を考えてほしい。
● アルバイトの情報を提供してほしい。
● 必要な参考書を教えてほしい。

心理的サポートについて

心理的サポートは、留学生の悩みについて一緒に考えて理解を示してくれたり、励ましてくれたりするような精神的な助力である。

表-３は筆者がまとめた在日留学生が求めている心理的社会支援の内容である。

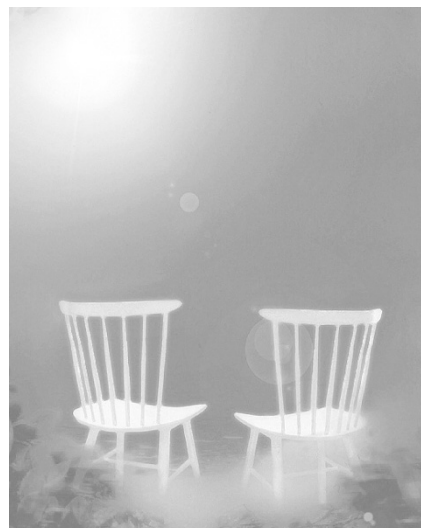
表-3

心理的サポート
● 勉強によるストレスが溜まっている時に、相談に乗ってほしい。
● 勉学に自信がない時に、励ましてほしい。
● 勉学において、努力を認めてほしい。
● 勉強で分からないところを、一緒に考えてほしい。
● 進路に悩んでいる時、相談に乗ってほしい。
● トラブルに遭った時に、助言してほしい。
● 私の意見を真剣に聞いたり、考えたりしてほしい。
● 差別に遭った時に、話を聞いて慰めてほしい。
● 寂しい時に、話し相手をしてほしい。
● 日頃の生活の様子に関心を示してほしい。

筆者の調査によって心理的サポートは３種類のサポートの中で最も不足しており、現実には、一番見逃されていることがわかった。ある日本語学校の教師は次のように述べた。

「現在日本語学校の留学生に対する支援の中でどこが足りないかといえば、心理的サポートだと思います。これについて、我々が持っている情報が非常に少ないので、留学生の心理面をどのようにケアすれば良いか、教えて欲しいです。」

留学生が日本語学校の教師や事務員からもらった心理的サポートを見ると、他の種類のサポートと比べ、やはり質的にも量的にも未だしの感が大きい。しかも、他の種類のサポートはある程度制度化されているのに対して、心理的サポートは未だ個人レベルでのものに留まっている。

従って、留学生に対する支援においては、心理的サポートという大きな課題を、今後より検討し充実すべきであろう。

FACEプログラム ボランティアから・留学生から

〈FACEボランティア〉 外岡 もも子

そもそも私にとってFACEの活動はとても画期的なものです。自分の覚束ない外国語でのコミュニケーションは限界があり、表現したくても言葉にならない事がらがあまりに多く、そのじれったさや無念さを感じることなく外国の方とおしゃべりができるなんて『へえ！ そんなことできるんだ!!』という思ってもいなかった喜びです。自分の外国語の力もupしなければとは思いますが、外国の方に日本語を覚えていただく方がはるかに効率がいいのです。

今回、ネネンさんとの出会いは、まさにそのことを実感させてくれました。

ネネンさんとのおつきあいは、「みんなの日本語」の１課から始まったのです。でも２年経過した現在、彼女は日本語能力試験３級に合格するまでの力を身につけました。おかげでいろいろなおしゃべりを楽しんでいます。

彼女は週３回もボランティアとの日本語の時間をとってきたほどの努力家です。でも、それぞれの日本語の教室でも、もちろん家でも、常に彼女は小さなジャスミンちゃん（３才）のお母さんで、たぶんひとりで勉強する時間をそう多くはとれなかったと思われます。それにも関わらず、彼女はここまで日本語を自分のものにしました。

これだけ日本語を知ろうとしてくださったネネンさん、あなたと出会えてほんとうによかった。ほとんど娘のようなあなただからこう言わせてね。

「ネネンさん　すごいよ！」

ネネン・チャイルニシア（インドネシア）

東京へ来て２年になります。最初の３ヶ月は言葉をはじめ戸惑うことばかりでした。そんな時に夫が学ぶ大学のFACEプログラムについて知りました。それから1ヶ月後、このプログラムに参加し、日本語や文化について学び、とても刺激的で楽しい時を過ごしました。

その他にも在住する足立区役所が主催するボランティアによる日本語教室にも通ったおかげで、日本語能力試験３級に合格することが出来ました。私を助けて下さった全てのボランティアの方たち、なかでも多くの時間を一緒に過ごして下さったFACEプログラムのボランティア外岡ももこ先生には、心から感謝します。

〈FACEボランティア〉 植村 早苗

留学生相談室から研究者の家族として来日した朴喜貞さんをご紹介いただいたのは、昨年の11月でした。

以後、相談室や自宅でお料理をしたり雑談をしたりの交流が続いています。

特別なことをするわけではなく日常生活の中での交流です。料理もごくふつう、我家流のおそうざいを作ります。友人との忘年会にお誘いすると、友達の友達は皆友達と輪が広がりました。

こんなおつきあいのなかで耳に入る日本語に質問が出て、そういえばこの言葉の意味はと頭をひねるのも新鮮な体験です。

年代、国籍、生育環境も異なる者同志が互いに言葉をやりくりして、ます目を埋めるように少しずつ知り合っていく作業には交流ボランティアならではの充実感があります。

朴 喜貞　パク ヒジョン（韓国）

先ず、FACEプログラムのボランティアの皆さんに拍手を送りたいです。初めて会う見慣れない外国人である私たちに、暖かい関心と愛情を示してくれるボランティアの皆さんがいたお陰で、このプログラムがすばらしいものだと思いました。

私もまた外観は日本人と似ているにもかかわらず、あまりにも違うようで漠然とした不安を持ってこのプログラムを始めました。しかし、時間が流れれば流れるほど、年齢と性別を超えるボランティアの皆さんのフレンドシップに感動し、心の扉も開けるようになりました。年末に様々な国の人と過ごした忘年会と、まるで実のおばが作ってくれたような温かい料理をいただいたことは、一生忘れられないでしょう。ここでの思い出は、今後の人生を豊かにしてくれるすばらしい指針書になると信じております。

〈FACEボランティア〉 浜島 良枝

間もなく生後一年になるFaridちゃんは、Indonesiaからの留学生Iskandarさんとその家族として来日したSilviawatiさんの長男である。

Silviawatiさんに FACEプログラムで紹介されたのは、来日間もない一昨年の春たけなわの頃であった。一週一度日本語の勉強を始めたが、彼女の進歩はめざましく、今では日常会話には事欠かなくなった。勿論、電話でのやりとりも何の心配も無い。

知り合って半年ほどたった頃、「先生（彼女は私をそう呼ぶ）赤ちゃんができました。」と報告があった。既に保育園に通う長女のIchaちゃんがいたが、第二子を待ちわびる夫妻の表情はとても微笑ましく、慣れない外国での出産を心配する様子もなかった。かえって私の方があれこれ心配になって、無事出産するまで注意深く見守ることを心に決めていた。

次第に大きくなるお腹を抱えながら、寒い冬にもめげず一週一度の東大通いは続き、そして昨年の五月祭を楽しんで間もない頃、無事男子を出産。

もうすぐ満一歳の誕生日を迎えるFaridちゃん、会うたびにその表情は豊かになり、赤ちゃんの顔から子どもの顔へと変わる。初めの頃はバギーの中でおとなしく寝ていた彼も、今では自己主張もするし人見知りもするので、私はなかなか抱かせてはもらえない。既に孫達も大きくなってしまった私には新たに得た孫のようで、お姉ちゃんのIchaちゃんとともに本当にいとしく思われる。日本生まれのFaridちゃんと、来年は日本の小学校へ上がるIchaちゃん、将来Indonesiaと日本にどんな関わり方をするのだろう。

彼の国に親しい家族を持っている私には、Silviawatiさん一家は特別な外国人家族なのである。

シルビアワティ（インドネシア）

私は二年程前に来日しましたが、東京での生活には本当に驚かされました。私の国と比べると全てが猛スピード。しかも私には回りの人が何をしゃべっているのか理解できませんでした。そこで夫に相談し、留学生センターの日本語クラスに参加しました。しかし、日本語コミュニケーションの上達にはそれだけでは充分だとは思えませんでした。私には日常生活で使える言葉が必要でした。

そんな時、ＦＡＣＥプログラムに参加している友人が、先生とのコミュニケーションに集中した非公式なコースがあることを教えてくれたのです。さっそくこのコースに参加しましたが、とても助かりました。日常の体験を話し合えること、そして日本文化を学べることの２つのがとても励みになりました。参加して約２年になりますが、今では私にとってかけがえのない存在です。なかでも私が日本の環境に早く適応できるよう、辛抱強く助けて下さった「おかあさん」、この場をお借りして心からお礼を申し上げます。

留学生課の新しい顔

留学生課長　**平野　榮三**（ヒラノ　エイゾウ）

❶ **着　任：** 2005年4月

❷ **仕事の内容：** 事務総括

❸ **留学生へのメッセージ：** 留学生の皆さんが東京大学での勉学、研究が無事終了できるまで、私たち留学生課は皆さんの応援をしていきます。日本での生活は、異文化に加え、物価が高く経済的にも大変でしょうが、皆さんが目標を達成されることを祈念しております。

留学生課副課長（支援チームリーダー）　**武田　豊**（タケダ　ユタカ）

❶ **着　任：** 2005年4月

❷ **仕事の内容：** 支援チーム業務の総括及び留学生課業務の総括補佐

❸ **留学生へのメッセージ：** 皆さんの日本における勉学生活に少しでも役立つようサポートしていきたいと思います。

留学生課　企画調査チーム　**行友　紀子**（ユキトモ　ノリコ）

❶ **着　任：** 2005年4月

❷ **仕事の内容：** 日本語教育、集中・特別コースの受け入れ手続きに関すること。留学生センターの教員等に関する庶務事務に関すること。など

❸ **留学生へのメッセージ：** 日本に留学した目的を忘れず、充実した生活を送ってください。日本との文化交流がより発展することを願っています。

留学生センター・ニュースは東京大学留学生センターにより発行されています。
お問い合わせや御意見は留学生センター・留学生相談室までお願いします。

発行日： 2005年6月30日

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学留学生センター
TEL：03-5841-2360　　FAX：03-5805-7807

E-mail：adv@ic.u-tokyo.ac.jp
Home Page：http://www.ic.u-tokyo.ac.jp/
http://www.ic.u-tokyo.ac.jp/adv/index_j.html